

# 桐生市の文化財

文化財番号 103

重要文化財

公開区分 公開

種別コード 1 01 02 01

指定日 平成 4年 8月10日

指定名称

ひこべけじゅうたく ごとう (おもや ながやもん ふゆずみ ぶんこぐら こくぐら)

彦部家住宅 五棟 (主屋・長屋門・冬住み・文庫倉・穀倉)

施設名称等

(補足説明:敷地20,607.15㎡及び敷地内の石垣、塀、土塁、井戸、祠社を



所在地 桐生市広沢町六丁目877  
所有者 彦部 敏郎

指定内容 主屋他四棟及び敷地等  
建築年代 主屋(17世紀中期)  
長屋門他(江戸中期・後期)

## 概要

彦部家住宅は桐生市の南東部で渡良瀬川右岸に位置し、西側に連なる手臼山の麓に東西約130メートル、南北約100メートルに及ぶ屋敷地を有しています。

空堀や土塁、喰い違い構造の搦手口など中世の屋敷構えを良好に残し、手臼山砦を詰めの城とする広大な城館跡を形成しています。屋敷内には17世紀前半の全国屈指の古民家である主屋をはじめ長屋門・冬済み・穀倉・文庫倉の江戸時代に建てられた建造物5棟及び敷地約20,600平方メートルが重要文化財に指定されています。

また、指定物件以外にも彦部家が織物業を営んでいた大正時代に建てられた女工の寄宿舎や医務所が残っており、彦部家の歴史のみならず桐生が歩んできた織物の歴史を見ることができる貴重な文化遺産となっております。